

学校図書館の機能をさらに充実させます

予算額 3375万2千円

学習指導要領で求められる言語能力や情報活用能力の育成に、学校図書館は大変重要な施設です。第三期武蔵野市学校教育計画において、学校図書館を「①『読書センター』『学習センター』『情報センター』の機能をもつ学びの場として整える」「②学校図書館に期待されている役割を最大限に発揮するため学校図書館サポーターの専門性向上や常駐化等人的支援を充実させる」と示しています。また、不登校傾向の児童生徒の居場所となることや、武蔵野市民科の学習で、中学生から試験前に学校に残って勉強ができる場所が欲しいという提案もありました。

これからの学校図書館には、読書活動の推進に加え、調べ学習など各教科のさまざまな授業における探究活動の場となり、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に資する役割が一層期待されているため、令和5年度から、さらに学校図書館の充実を図ります。

■ 充実させる内容

●学校図書館サポーターの名称を「学校司書」に改め、勤務時間を拡大

令和4年度まで

月～金5時間/1日（小学校のみ水は3時間）×36週



令和5年度から

月～金7時間/1日×36週

●充実により得られる効果

- ◎ 教員と連絡が取れる時間に合わせた勤務時間の確保により、授業をより一層効果的にするための教科学習と連動した適切な資料の提供を行うなど、授業の質の向上と教員の負担を減らすことができます。
- ◎ 児童生徒には、放課後に安心して過ごせる居場所や自主学習、調べ学習への対応が可能となります。

■ その他

令和3年度よりモデル校において勤務時間を1日あたり2時間増やしたことにより、貸出件数の増加や利用人数の増など効果を上げました。

そこで、令和5年度から「学校司書」の勤務時間を、1日7時間まで勤務可能とし、教職員や児童生徒のニーズに対応できるようにします。

